

平成28年日本植物形態学会3賞授賞理由

選考委員会 ○野口哲子, 酒井敦, 野崎久義, 永田典子, 唐原一郎

1. 学会賞

今年度の授賞はありませんでした。

2. 平瀬賞

岩元明敏氏(東京学芸大学教育学部自然科学系生命科学分野)

Iwamoto, A., Izumidate, R., and De Craene L. P. L. (2015) Floral anatomy and vegetative development in *Ceratophyllum demersum*: A morphological picture of an “unsolved” plant. *American Journal of Botany* 102: 1578-1589.

花の数性と葉序に関する植物形態学上の古典的問題について、進化系統学的に鍵となる植物種マツモ(*Ceratophyllum demersum*)を用い、その初期発生過程の組織切片とSEMの高度な技術による観察結果から、1. 雄花の花被片は発生初期における上節の葉からの物理的な圧力によって様々なパターンに変化し、これが雄花における数性の多様性に繋がっていること、2. 1つの節上に、6通りの発芽パターンがあり、栄養芽が最大で2つまで形成されることから、マツモは従来考えられてきた輪生ではなく、十字対生葉序である可能性が高いことを明らかにしました。植物形態学の進歩に寄与する成果であり、分子系統でも議論がある課題に形態学的な観察で迫った独創的で優れた論文として、平瀬賞にふさわしいと判断いたしました。

栗原大輔氏(名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻)

Kurihara D., Mizuta Y., Sato Y., and Higashiyama T. (2015) ClearSee: a rapid optical clearing reagent for whole-plant fluorescence imaging. *Development* 142: 4168-4179.

植物の蛍光観察の妨げになる自家蛍光の元であるクロロフィルを蛍光タンパク質の蛍光を保持したまま取り除いて植物体を透明化する試薬「ClearSee」を開発し、複雑な植物体内構造を1細胞レベルで蛍光観察することを可能にしました。本試薬は、従来の植物組織の透明化処理時間を大幅に短縮し、また、多くの植物種に適用可能であり、今後、本手法を用いた研究が植物形態学の進歩に寄与する可能性が期待されます。本論文が掲載されたDevelopment誌の表紙を飾った写真をはじめ、本手法で得られた蛍光画像はメディアでも広く紹介され、植物形態学の社会での認知度や評価を高めた功績も多大です。以上のことから、平瀬賞にふさわしい優れた論文であると判断いたしました。

塚谷裕一氏(東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻、

自然科学研究機構・岡崎統合バイオサイエンスセンター)

Katagiri, Y., Hasegawa, J., Fujikura, U., Hoshino R., Matsunaga, S., and Tsukaya, H. (2016) The coordination of ploidy and cell size differs between cell layers in leaves. *Development* 143: 1120-1125.

葉の表皮組織の解析から提唱されてきた「DNAのセット数に比例して植物の細胞は大きくなる」という通説に対し、表面からは観察の難しい葉の柵状組織を新規透明化技術TOMEIで処理し、その細胞体積と核DNA量を測定して、均一な大きさの細胞からなる柵上組織でも表皮組織と同程度に核内倍加が起きていることを示し、通説を覆しました。更に、葉の柵状組織でも、表皮の性質を与える遺伝子ATML1を発現させると、核内倍加と細胞体積の比例関係が著しく向上することから、両者の比例関係は表皮に特有の法則であることを明らかにしました。植物の器官のサイズをコントロールする仕組みの理解を大きく書き換える画期

的な発見であり、平瀬賞にふさわしい独創的で優れた論文であると判断いたしました。

3. 奨励賞

藤原崇之氏 (国立遺伝学研究所共生細胞進化研究部門)

藤原崇之会員は、学生時代から単細胞紅藻シアニディオシゾン・メローラを研究材料に用い、液胞の分配、細胞周期の進行と明暗周期との同期問題、コンデンシンの役割など、多岐にわたり興味深い研究を精力的に進めてきました。特に、液胞の分配に関わる遺伝子 *VIG1* の発見、蛍光顕微鏡法や免疫電子顕微鏡法を駆使し、*VIG1* によって液胞とミトコンドリアが結合しながら娘細胞へと分配される分子機構を明らかにしたこと (Plant Cell, 2010)、分裂期染色体の構築と正確な分配におけるコンデンシンの役割の解明 (Mol Biol Cell, 2013) などの研究業績が評価されました。植物形態学の分野での今後の活躍が十分期待され、奨励賞を授与するにふさわしい人物であると判断いたしました。

吉田大和氏 (理化学研究所生命システム研究センター)

吉田大和会員は、主に単細胞紅藻シアニディオシゾン・メローラを用い、色素体分裂装置の単離法を確立し、光ピンセット法や電子顕微鏡法によって、色素体分裂におけるダイナミンの役割を解明し (Science, 2006)、組織化学染色法で検出されたPDリング構成糖に着目して新規糖合成遺伝子 *PDR1* を同定し、*PDR1* がPDリング構成タンパク質の一つであることを証明しました (Science, 2010)。更に、酵母ピキアを用いた葉緑体 FtsZ リングの形成・分子機構の解明など (Nature Plants, 2016)、一貫して、分裂リングの形態学的研究を基盤にして、分裂リング制御の分子メカニズムを明らかにしてきたことが評価されました。植物形態学分野での今後の活躍が十分期待され、奨励賞を授与するにふさわしい人物であると判断いたしました。

事務報告

日本植物形態学会事務報告

2016-2017 年度 庶務幹事 峰雪 芳宣

河野会長以下2016年度執行部による主な活動は、PLANT MORPHOLOGY誌第28巻の発刊、第21回日本植物形態学会3賞の選考と受賞、第28回総会・大会の開催、公益社団法人日本植物学会第80回大会における共催シンポジウムの開催でした。また、所属している生物科学学会連合をととしての活動、熊本地震に対する対応、公益社団法人日本顕微鏡学会の関東支部講演会および同学会主催の2016年度電子顕微鏡技術認定試験の協賛などを行いました。学会ホームページも新しくしました。

1. 日本植物形態学会第28回総会・大会開催報告

第28回総会・大会を、琉球大学の八木沢芙美氏を大会長として、平成28年9月15日に沖縄県中頭郡の琉球大学西原キャンパスで開催しました。

- | | |
|-------------|---------------------------|
| 11:00-12:15 | 評議員会
(共通教育棟1号館2階 大会議室) |
| 12:30-13:15 | 総会
(共通教育棟1号館 118室) |
| 13:30-15:15 | 講演会
(共通教育棟1号館 118室) |
| 15:30-17:45 | ポスター発表／ポスター賞表彰
(大学会館) |
| 18:30-20:30 | 懇親会
(琉球大学生協 北食堂) |

大会出席者は99名(予約参加77名、当日参加22名)、受賞記念講演5件、ポスターは50題の発表がありました。

総会では「会長挨拶」、「大会長挨拶」、「会長報告」、「庶務報告」、「編集委員会報告」、「広報委員会報告」、「会計報告」、「会計監査報告」、「3賞選考結果報告」等があり、それぞれの報告が了承されました(詳細は幹事会・評議委員会議事録ならびに総会議事録をご覧ください)。

引き続き、平成28年度日本植物形態学会3賞の授賞式が執り行われました。今年度の受賞者は「平瀬賞」が岩元明敏氏(東京学芸大・教育・自然科学)他、栗

原大輔氏(名古屋大・院理・生命理学)他、ならびに塚谷裕一氏(東京大・院理・生物科学、自然科学研究機構・岡崎統合バイオサイエンスセンター)他の3件、「奨励賞」が藤原崇之氏(国立遺伝研・共生細胞進化)と吉田大和氏(理化学研究所・生命システム研究センター)の2件、「学会賞」は該当者なしでした。

受賞講演会では、藤原崇之氏が「真核藻類における日周期と細胞周期進行の関係の理解に向けて」、吉田大和氏が「ナノレベルの構造から解き明かす色素体分裂装置の分子メカニズム」、岩元明敏氏が「Floral anatomy and vegetative development in *Ceratophyllum demersum*: A morphological picture of an “unsolved” plant」、塚谷裕一氏が「The coordination of ploidy and cell size differs between cell layers in leaves」、栗原大輔氏が「ClearSee: a rapid optical clearing reagent for whole-plant fluorescence imaging」という演題で講演されました。

ポスター発表では、参加した一般会員の投票によりポスター賞の選考が行われ、「シロイヌナズナの胚軸及び花芽メリステムの分化維持に関わる新規因子の解析」(高橋和希、郡司玄、堀口吾朗、塚谷裕一、Ferjani Ali; 東京学芸大・教育・生命他)が受賞ポスターに選ばれました。第一発表者である高橋和希氏には、河野会長から副賞の図書カードが贈呈されました(表彰状は後日送付しました)。大会終了後は琉球大学生協北食堂で懇親会が開催されました。37名が集まり、沖縄名物の食事とお酒を楽しみながら会員相互の親睦を深めました。

本学会大会翌日から宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催された公益社団法人日本植物学会第80回大会では、日本形態学会共催のJPR国際シンポジウム「Floral development -Re-evaluation of its importance-」が岩元明敏会員をオーガナイザーとして開催されました。3名の外国からの講演者を含む6題の花の発生に関する講演がありました。また、日本植物形態学会、認定NPO法人総合画像研究支援、新学術領域研究「環境記憶統合」の3つの団体共催の

シンポジウム「多様な植物現象を理解するためのイメージング：細胞内構造から環境応答まで」が金岡雅浩会員と植田美那子会員をオーガナイザーとして、日本植物形態学会単独の共催でシンポジウム「微細藻類の多様な魅力：分類，進化，ゲノムから形態，藻類バイオまで」が河野重行会員をオーガナイザーとして行われました。

参考：大会参加者リスト：赤司一，浅岡真理子，浅野円花，天野瑠美，石井公太郎，石原弘也，市原健介，稲田のりこ，今市涼子，井元祐太，岩元明敏，上田健治，植田美那子，江崎和音，大江真央，大田修平，大塚祐太，大槻涼，岡崎多希子，小笠原希実，岡村枝里佳，風間裕介，勝山雄喜，金井浩美，金子康子，唐原一郎，川勝弥一，川出健介，川元寛章，北沢美帆，木下綾華，栗田和貴，栗原大輔，黒岩常祥，黒岩晴子，郡司玄，厚井聡，河野重行，古賀皓之，古賀友紀乃，小塚俊明，小林恵，酒井敦，坂上万里，坂本卓也，坂本勇貴，佐々木晶子，佐藤由衣，嶋村正樹，杉山立志，高野博嘉，高橋和希，田草川真理，田中厚子，田中一郎，田中学，田中理恵，塚谷裕一，豊岡公德，中川愛子，中島耕大，中村宗一，長里千香子，永田典子，野口哲子，野崎久義，野村佳織，野村真未，橋本季巳江，橋本怜奈，幡野恭子，浜村有希，林八寿子，東山哲也，平川健，平田なつ，藤本聡，藤浪理恵子，藤原崇之，藤原基洋，星野里奈，堀口吾朗，松永幸大，三角修己，峰一郎，峰雪芳宣，三好彩央里，元村一基，森田彩，八木沢芙美，山下朋恵，吉岡優奈，吉原真衣，吉田大和，吉田祐樹，Ferjani Ali，Pin Guo (99名)

日本植物形態学会3賞受賞候補者の募集

本年度も下記の要領で日本植物形態学会3賞受賞候補者を募集いたします。自薦・他薦を問わず多くの方々の応募を歓迎いたします。これら3賞は、同一年に同時に受賞することも、また繰り返して受賞することもできます。

1. 日本植物形態学会3賞について

日本植物形態学会は、植物形態学の発展に寄与した研究者を賞賛する目的で、「日本植物形態学会賞」、「平瀬賞」、「日本植物形態学会奨励賞」の3賞を設けております。

「日本植物形態学会賞」は、植物形態学の進歩に長年寄与し、植物科学の発展に貢献した研究者に与えられます。「平瀬賞」は、この賞を創設した1996年が平瀬作五郎によるイチョウの精子発見の百周年にあたることに因み、平瀬の功績を讃えてその名を冠したもので、植物形態学の進歩に寄与する独創的で優れた論文に与えられます。「日本植物形態学会奨励賞」は、植物形態学の分野で将来の活躍が期待される若手研究者に与えられます。

2. 日本植物形態学会3賞受賞候補者募集要領

1) 応募資格：各賞とも、本学会員に限ります。

- a) 日本植物形態学会賞に関しては、特に年齢制限はありません。
- b) 平瀬賞に関しては、選考の対象となる論文は、原則として応募する年を含め5年以内に国際誌に発表したものとしますが、特に優れた論文はその限りではありません。
- c) 日本植物形態学会奨励賞に関しては、応募する年の12月31日において、満40才未満でなければなりません。
- d) これら3賞は、同一年に同時に受賞することも、また、繰り返して受賞することもできます。
- e) 応募回数は問いません。各賞とも何回でも応募できます。

2) 応募方法：各賞とも他薦、自薦を問いません。2017年6月30日(必着)までに、以下の資料をいずれも電子ファイルの形で日本植物形態学会事務局に送付して下さい。自薦の場合、推薦書は特に必要としません。

- a) 日本植物形態学会賞：①推薦書(他薦の場合)あるいは応募理由書(自薦の場合)、②略歴書、③論文リスト、④論文別刷(PDFファイル)。ただし、②～④の提出は、必須ではありません。
- b) 平瀬賞：①推薦書(他薦)あるいは応募理由書(自薦)、②対象となる論文1編の別刷(PDFファイル。その論文が掲載されている国際誌の表紙に、写真や図が採用されている場合には、表紙とその説明文も添付して下さい)、③代表受賞候補者の氏名を記した文書、④代表受賞候補者が過去に日本植物形態学会で発表したポスターの発表年、発表者、タイトルを記した文書(発表の実績があれば必ず提出して下さい)。
- c) 日本植物形態学会奨励賞：①推薦書(他薦)あるいは応募理由書(自薦)、②略歴書、③論文リスト、④代表的な論文3編の別刷(PDFファイル)、⑤過去に日本植物形態学会で発表したポスターの発表年、発表者、タイトルを記した文書(発表の実績があれば必ず提出して下さい)。

3) 授賞および記念発表：各賞の受賞者は当該年度日本植物形態学会総会のおよそ1ヶ月前までに通知いたします。受賞者には、総会において賞状と記念品を授与いたします。また、受賞者には、本学会の講演会で受賞記念講演を行ない、本学会誌“Plant Morphology”にミニレビューを執筆していただきます。

4) 選考方法：各賞の受賞者の選考は、日本植物形態学会によって設けられた選考委員会によって行われます。

3. 日本植物形態学会3賞受賞候補者選考要領

毎年7月までに選考委員会を設置し、会議によって遅くとも大会の一ヶ月前までに選考を終了する。

- 1) 選考委員会：選考委員4名と“Plant Morphology”編集委員長1名の計5名で、選考委員会を構成する。
- 2) 選考委員の選出：選考委員は、評議員の互選で投票(4名連記)によって上位3名を選出し、分野の偏りがないように得票結果を考慮して、会長が残り1名を選ぶ。
- 3) 選考委員の任期：選考委員の任期は1年とし、連続して2期を超えないものとする。また、受賞候補者は選考委員としない。
- 4) 選考委員長を選出：選考委員長は選考委員の互選により選出する。ただし、2期連続して選考委員長を務めることはできないものとする。
- 5) 会長と庶務幹事の被選出権：会長と庶務幹事には被選出権はないが、会長はオブザーバーとして選考委員会に出席できる。
- 6) 受賞者の選考方法：選考委員会は過半数の出席をもって成立するものとする。ただし、メールや電話による出席を認める場合もある。また、受賞者の選考は出席者の全員一致を原則とし、受賞該当者がいない年や複数の受賞該当者がいる年もあり得る。

応募書類送付先：

〒671-2201 兵庫県姫路市書写2167
兵庫県立大学大学院生命理科学研究科内
日本植物形態学会事務局
庶務幹事 峰雪芳宣
Tel. 079-267-4938
FAX: 079-267-4920
E-mail: mineyuki@sci.u-hyogo.ac.jp

会費の納入について

会費の振込用紙を同封いたしましたので、よろしく納入のほどお願いいたします。封筒のラベル右下に会費を納入いただいた最終年度を記していますので、これをお確かめの上、2017年度分までの金額をお振込みください(たとえば、「2016」とあれば1年分、「2015」とあれば2年分お振込みください)。会費は、一般会員が年間3,000円、学生会員が年間1,000円です(但し2009年度分より、2008年度以前の学生会費は2,000円)。学生会員の場合、必ず振込用紙の通信欄に所属・学年と指導教員名を明記してください。

日本植物形態学会第29回総会・大会について

2017年度の日本植物形態学会第29回総会・大会は、9月7日(木)午後から東京理科大学野田キャンパスで開催の予定です。また、翌日から開催予定の日本植物学会第81回大会においても、本会共催シンポジウムが開催される予定です。こちらにも奮ってご参加ください。

日本植物形態学会会則（平成24年1月1日改正）

総則

第1条

本会は日本植物形態学会 (The Japanese Society of Plant Morphology) という。

第2条

本会は植物形態学会の発展と普及を図り、あわせて会員相互の親睦を深めるのを目的とする。

第3条

本会は前条の目的を達成するために会誌等の出版物の刊行、講演会など、そのほか必要と思われる事業を行う。

会員

第4条

本会の会員は次の2種とする：通常会員・団体会員。

第5条

通常会員とは所定の会費を納める者をいう。

第6条

団体会員とは所定の会費を納める団体をいう。ただし、団体会員は本会役員の選出・被選出にかかわる権利を持たない。また、第20条に定める会員の権利のうち、本会の刊行物の配布にかかわる権利のみを有する。

役員

第7条

本会には次の役員を置く：会長1名・幹事若干名・評議員若干名・編集委員長1名・編集委員若干名・広報委員長1名・広報委員若干名・会計監査1名。

第8条

役員は会員の中から選出し任期は2ヵ年とする。

第9条

会長は全会員の投票により就任の前年度中に選出される。その際評議員会は若干名の候補者を推薦することができる。会長は引き続き3期選出されることはできない。

第10条

評議員は全会員の投票によって選出される。評議員は引き続き3期選出されることはできない。なお会長および会計監査は評議員を兼任することができない。

第11条

幹事・編集委員長・広報委員長・広報委員はいずれも会長が委嘱する。会計監査は会長が評議員会にはかり、委嘱する。編集委員は編集委員長が選出評議員会にはかり、会長がこれを委嘱する。

第12条

会長は会務の全体を統括する。編集委員長は会報の編集に関する一切の責任を負う。幹事は庶務・会計・選挙管理など日常の会務を行う。会計監査は会計を監査する。

第13条

評議員は評議員会を構成する。評議員会は会長の諮問の範囲で本会の要務を審議する。

第14条

編集委員は編集委員会を構成する。編集委員会は編集委員長の諮問の範囲で、会誌の編集に関する要務を審議する。

第15条

広報委員長と広報委員は広報委員会を構成する。広報委員会は学会ウェブページの管理・運営、会誌のオンライン公開等に関する要務を審議・遂行する。

第16条

会長は必要に応じて特定の委員会を設けることができる。委員会の任務、委員の選出方法・任期等は評議員会が定める。

会計・会費

第17条

本会の会計年度は1月に始まり12月に終わる。

第18条

通常会員の会費は年3000円、ただし、学生の場合に限り年1000円とする。団体会員の会費は一口年10000円とする。

総会・講演会等

第19条

本会は原則として毎年1回総会を開き、会務を協議し議決する。なお会長が必要と認めた場合に臨時総会を開くことができる。

第20条

本会は総会の時、研究発表および講演会などを行う。

このため臨時の役員を置くことができる。臨時の役員は会長が委嘱する。

会員の権利・義務

第21条

会員は会合に出席して講演をし議事に参加し、会報に投稿することができる。また定期刊行の会報は無料で配布を受ける。ただし、その他の刊行物の配布方法は評議員会の議を経て決定される。

第22条

会員が退会しようとするときは、そのことを本会に通知しなければならない。もし会費の滞納がある時はその際全額を納めなければならない。ただし既に納めた会費は一切これを返さない。通常会員および団体会員が会費を滞納したときは直ちに前条の権利は停止され、1ヵ年以上滞納したときは除名されることがある。

会則変更

第23条

本会の会則を変更するには総会または臨時総会でこれを協議し、出席会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

付則

1. この会則は平成16年1月1日から実施する。
2. 平成21年1月1日改正(第17条)
3. 平成24年1月1日改正(第7, 11, 15条, 申し合わせ1)

申し合わせ

1. 役員の定数は当分下記の通りとする。
会長1, 評議員10, 幹事2(庶務, 会計), 編集委員長1, 編集委員2, 広報委員長1, 会計監査1. 広報委員は2名とするが、幹事(庶務)と編集委員の1名がこれを兼務する。
2. 会長の選挙は単記, 評議員の選挙は10名連記で、全会員の郵送による無記名投票によっておこなう。

日本植物形態学会広報委員会規則

- 1) 広報委員会は学会ウェブページの管理・運営, 会誌のオンライン公開, その他の主にウェブを介した学会の広報活動に関する要務を審議・遂行することを任務とする。
- 2) 広報委員会は, 委員長1名, 編集委員との兼任の委員1名, 庶務幹事との兼任の委員1名から構成される。
- 3) 広報委員長と広報委員の任期は2年とする。
- 4) 広報委員長は会長が会員の中から選びこれを委嘱する。編集委員兼務の広報委員については編集委員長が編集委員の中から選び会長がこれを委嘱する。庶務幹事兼務の広報委員については会長が庶務幹事にこれを委嘱する。
- 5) 広報委員長は広報委員会内の審議を統括するとともに学会ウェブページ全体にわたり管理・実務作業を行う。
- 6) 編集委員兼務の広報委員は主に会誌のオンライン公開関連の要務を担当するとともに広報委員会の審議全般に加わる。
- 7) 庶務幹事兼務の広報委員は学会から発信する情報を広報委員長に提供するなど学会ウェブページからの情報発信を助けるとともに広報委員会の審議全般に加わる。

この規則は2012年1月1日より実施する。(2011年9月16日総会決定)

2015 年度 収入支出状況

単位：円

収 入

前年度繰越金			1,551,122
会員会費			434,000
(内訳)	一般	3,000×73 名	219,000
		6,000×15 名	90,000
		9,000×3 名	27,000
		12,000×5 名	60,000
	学生	1,000×29 名	29,000
		2,000×3 名	6,000
		3,000×1 名	3,000
大会参加費			154,000
(内訳)	一般	2,000×57 名	114,000
	一般（非会員）	3,000×2 名	6,000
	学生	1,000×30 名	30,000
	学生（非会員）	2,000×2 名	4,000
別刷り代			107,000
預金利息			182
収入合計			2,246,304

支 出

Plant Morphology 関連			595,943
(内訳)	印刷費、発送料	565,943	
	J-STAGE Vol27 登録作業（アルバイト）	30,000	
学会 3 賞関連			38,901
(内訳)	楯 3 つ	38,901	
大会支出			147,041
(内訳)	お茶・お菓子	17,806	
	図書カード 1 枚（ポスター賞）	5,000	
	アルバイト代（7 名）	30,000	
	会場使用料	89,000	
	文具・名札等	4,205	
	会議部屋代	1,030	
選挙関連			29,933
(内訳)	発送料	24,600	
	ラベル・文具	5,333	
事業関連旅費			29,060
(内訳)	生物科学学会連合(奈良-東京)	29,060	
その他（事務費）			9,428
(内訳)	郵送費・宅急便代	3,860	
	ラベル・文具	3,408	
	振込手数料等	2,160	
生物科学学会連合参加費			50,000
支出合計			900,306
次年度繰越金			1,345,998

日本植物形態学会

会長 野口 哲子 殿

平成 28 年 8 月 24 日

会計監査報告

日本植物形態学会 2015 年度の学会活動及び財政状況を監査し、会計の執行関係の書類を照会しました結果、適正におこなわれていることを認めました。ここに、会計監査を経たことを証します。

日本植物形態学会

会計監査

松永 幸大



会員異動(2016年5月6日から2017年4月9日)

会員数273名(2017年4月9日現在)

新入会員

赤司 一(Akashi Hajime) 学生会員 広島大学理学部生物科学科
浅岡 真理子(Asaoka Mariko) 学生会員 東京学芸大学
浅野 円花(Asano Madoka) 学生会員 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 植物生存システム分野
市原 健介(Ichihara Kensuke) 一般会員 東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻
大塚 祐太(Otsuka Yuta) 学生会員 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻発生進化研究室
岡崎 多希子(Okazaki Takiko) 学生会員 奈良女子大学理学部生物科学科
金井 浩美(Kanai Hiromi) 学生会員 奈良女子大学大学院理学研究科
木下 綾華(Kinoshita Ayaka) 学生会員 東京大学大学院
道祖土 博一(Saido Hirokazu) 一般会員 埼玉県農業技術研究センター高度利用・生産性向上研究担当高収益畑作
鈴木 智子(Suzuki Tomoko) 一般会員 日本女子大学理学部物質生物科学科
中川 愛子(Nakagawa Aiko) 学生会員 大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻
中島 耕大(Nakajima Kohdai) 学生会員 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系
野村 佳織(Nomura Kaori) 学生会員 広島大学理学研究科生物科学専攻
橋本 怜奈(Hashimoto Reina) 学生会員 東京学芸大学
平田 なつ(Hirata Natsu) 学生会員 東京学芸大学教育学部自然科学系生命科学分野
藤原 基洋(Fujiwara Motohiro) 学生会員 大阪大学大学院理学研究科
元村 一基(Motomura Kazuki) 一般会員 名古屋大学ITbM
森田 彩(Morita Aya) 学生会員 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻 植物生存システム分野
吉岡 優奈(Yoshioka Yuna) 学生会員 東京学芸大学教育学部自然科学系生命科学分野
吉田 祐樹(Yoshida Yuki) 一般会員 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻

会員情報の変更

岡田 昌久(Okada Masahisa) 一般会員 高知県立農業大学
齊藤 知恵子(Saito Chieko) 一般会員 国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター
榊原 恵子(Sakakibara Keiko) 一般会員 立教大学理学部生命理学科
杉山 立志(Sugiyama Ryuji) 一般会員 名古屋文理大学健康生活学部フードビジネス学科
墨谷 暢子(Sumiya Nobuko) 一般会員 慶應義塾大学商学部生物学教室
田中 厚子(Tanaka Atsuko) 一般会員 琉球大理学部海洋自然科学科生物系
玉置 大介(Tamaoki Daisuke) 一般会員 富山大学大学院理工学研究部(理学)
野口 哲子(Noguchi Tetsuko) 一般会員 奈良先端科学技術大学院大学監事
藤原 崇之(Fujiwara Takayuki) 一般会員 国立遺伝学研究所細胞遺伝研究系共生細胞進化研究部門
宮川 勇(Miyakawa Isamu) 一般会員 山口大学大学院創成科学研究所
茂木 祐子(Mogi Yuko) 一般会員 理化学研究所 生命システム研究センター細胞遺伝子発現動態研究ユニット
藪内 隆俊(Yabuuchi Takatoshi) 一般会員 株式会社オーク技術部
吉田 大和(Yoshida Yamato) 一般会員 理化学研究所生命システム研究センター細胞遺伝子発現動態研究ユニット

退会者

岡村 枝里佳，栗田 和貴，栗林 剛正，佐々木 晶子，菅井 道三，菅澤 瑞穂，鈴木 孝仁，関 正典，
高木 麻衣，高橋 紀之，中野 渉，長谷川 淳子，原田 尚実，福田 泰二，横山 諒平

日本植物形態学会への入会申込みについて

以下の〈必要事項〉をE-mail,あるいはFaxまたは郵送にて,会計幹事(下記の〈宛先〉参照)までご連絡ください。申し込みが受理され入会が認められますと,会計幹事から連絡があり,振込用紙が送付されますので,その年の会費を振り込んでください。年会費は,一般3,000円,学生1,000円です。なお,年会費の納入は,大会の際に受付で行うこともできます。

本会では,会員への連絡を原則として電子的方法(E-mailおよびWebの併用)により行います。本会からのメール(発信アドレスmineyuki@sci.u-hyogo.ac.jp,タイトルが[Plant Morph]で始まります)が,スパムメールに紛れないようにご注意ください。インターネットを利用していないなどのやむを得ない理由で郵送による連絡を希望される場合は,〈必要事項〉の備考欄にその旨ご記入ください。郵送にて対応させていただきます。

また,所属・連絡先(とくにE-mailアドレス)に変更があった場合も,下記の〈宛先〉まで速やかに届け出てください。

〈宛先〉

〒671-2280 姫路市書写2167 兵庫県立大学大学院 生命理学研究科

日本植物形態学会庶務幹事 峰雪 芳宣

(Tel: 079-267-4938, Fax: 079-267-4920, E-mail: mineyuki@sci.u-hyogo.ac.jp)

日本植物形態学会新入会員申込書(兼会員情報変更届書)

(記入日 年 月 日)

〈必要事項〉

- ・氏名(漢字):
- ・氏名(ローマ字 例. Yamada Ichiro):
- ・性別: 男・女
- ・種別: 一般会員・学生会員
- (学生の場合, 学年と指導教員名:)

- ・所属機関(略さないでください):
- ・連絡先住所(郵便番号を含む): 〒
- ・連絡先電話:
- ・連絡先 Fax:
- ・連絡先 E-mail:

- ・研究材料(3点まで):
- ・研究テーマ(40字まで):

- ・備考(「電子的方法ではなく郵送による連絡を希望する」など):

PLANT MORPHOLOGY 投稿規定

(2017年 6月 29日 改正)

日本植物形態学会会則第3条に基づき、学会誌「PLANT MORPHOLOGY」を刊行し、その投稿規定を下記のとおり定める。

1. 本学会誌に掲載された論文等の国内外における著作権(著作権法第21条から第28条までの権利を含む)は、日本植物形態学会に帰属する。
 - (1) 本誌に掲載された図・表・文章などを他の雑誌に転載する際には、学会長の許可を得ること。
 - (2) 著作者本人が、PLANT MORPHOLOGY誌に掲載された学術論文を、著作者個人のWebページあるいは所属機関のWebページ(機関リポジトリを含む)でインターネット公開する権利を、学会として認める。その際には、出典(PLANT MORPHOLOGY誌の出版年、巻号とページ)、および著作権が日本植物形態学会にあることを明記すること。また、著作者本人がインターネット上で公開することができる学術論文の形態は、著者最終稿または出版社版(冊子の当該論文部分または別刷りをスキャンしたもの、あるいは著者宛に配布されるPDFファイル)とする。
2. 本学会誌に投稿する者は、原則として本会員に限る(ただし、共著の場合は必ずしも全員が会員である必要はない)。
3. 本誌が対象とする論文・記事は植物形態学ならびに関連領域に関するもので、原著論文、短報、総説などとする。
4. 他の雑誌・書籍等にすでに掲載された内容を含む原稿や、他の雑誌等に投稿中の原稿は原著論文や短報としてこれを投稿できない。総説等において、図・表・文章など出版済みの内容を転載している場合には、投稿前に著作権所持者の許可を取るとともに、著作権所持者の指示に従う形で、引用元を必ず明記すること。これらの規定に反した場合、また、データの捏造や他の著作物からの盗用など、科学的ないし社会的倫理に反する行為が判明した場合には、編集委員会は掲載決定後あるいは掲載後においてもその原稿の掲載取り消しを行うことができる。
5. 原稿は英文または和文とする。
6. 原稿の審査は編集委員と当該分野の専門家が行い、原稿の採否などは編集委員会の決定による。
7. 投稿原稿の体裁は次のとおりとする。
 - (1) テキストは一編につき一つのMS-Word形式のファイルで作成すること。
 - ・和文原稿はMS明朝、英文原稿はTimes New RomanまたはTimesを用いる。
 - ・英文は必ず著者の責任において英語を母国語とする人に校閲してもらうこと。
 - ・上記以外に特殊フォントを使用したとき(数式、人名、Figure legend等を含む)は投稿時にカバーレターに特殊フォントの種類と、それを使用した箇所を明記する。
 - ・投稿時に査読者の候補(氏名、所属、電子メールアドレス)を5名程度記入すること。
 - (2) テキストの内容は(a)表題(b)著者名(c)所属先と所在地およびAuthor for correspondence(氏名と電子メールアドレスを英語住所の後に記載)(d)要旨(e)Key words(3語以上5語以内)(f)本文(g)引用文献からなる。ただし、和文の場合は英文の要旨(表題、著者名、所属を含む、フォントはTimes New Roman)を添える。
 - (3) 図、写真、表、図の説明文はMS Word形式のファイル本文中の希望箇所に挿入する。さらに、図、写真、表の元データファイル(JPEG, EPS, TIFF形式のいずれか、360 dpi以上の解像度)をMS Wordファイルとは別に提出する。図の大きさについては指定されない場合、版下の作成時に適宜調節される。縮小を避けたい場合は、入稿時に図のサイズを指定すること(横幅が1カラムか2カラムかなど)。

(4) 文献の表記は以下の i), ii) を参照のこと.

i) 本文中に引用する文献の表記

- ・・・タンパク質であろう (Banno and Chua 2000, Favery et al. 2004).
- ・・・と考えられている (Pickett-Heaps and Northcote 1966a, 1966b, Gunning and Wick 1985).
- ・・・という可能性がある (図5, Karahara et al. 2010).

Marcus ら (2005) が指摘しているように・・・

Mineyuki と Gunning (1990) は,・・・

複数の場合, 年代順とする.

ii) 引用文献リストの表記は, 筆頭著者名でアルファベット順に並べること. 雑誌名は略称とする.

Farrar, D. R., Dasler, C., Watkins, J. E., and Skelton, C. (2008) Gametophyte ecology. In: Ranker, T. A., and Haufler, C. H. (eds) Biology and evolution of ferns and lycophytes. Cambridge Univ. Press, Cambridge, pp. 222-256.

Hagemann, R. (1992) Plastid genetics in higher plants. In: Hermann, R. G. (ed) Cell organelles. Springer, Berlin Heidelberg New York, pp. 65-96.

Ishihara, K., Takai, M., and Nishizawa, K. (2011) University of Tokyo, Japanese Patent P4729709, 2011-04-28.

Mizuta, Y., Kurihara, D., and Higashiyama, T. (2015) Two-photon imaging with longer wavelength excitation in intact *Arabidopsis* tissues. *Protoplasma*, doi: 10.1007/s00709-014-0754-5.

Kasahara, R. D., Portereiko, M. F., Sandaklie-Nikolova, L., Rabiger, D. S., and Drews, G. N. (2005) *MYB98* is required for pollen tube guidance and synergid cell differentiation in *Arabidopsis*. *Plant Cell* 17: 2981-2992.

Maheshwari, P. (1950) An introduction to the embryology of angiosperms. McGraw-Hill Book Company, Inc., New York.

Matsubayashi, Y. and Sakagami, Y. (1996) Phytosulfokine, sulfated peptides that induce the proliferation of single mesophyll cells of *Asparagus officinalis* L. *Proc Natl Acad Sci USA* 93: 7623-7627.

Mineyuki, Y., Suda, J., and Karahara, I. (2004) Electron tomography. *Plant Morphol* 16: 21-30 (in Japanese).

峰雪芳宣, 須田甚将, 唐原一郎 (2004) 電子線トモグラフィー. *Plant Morphol* 16: 21-30.

8. 投稿にあたっては以下のものを日本植物形態学会編集委員長に送付する (もしくは電子メールに添付し, 電子データとして送付する).
投稿原稿のファイル (MS-Word, およびPDF) と図, 写真, 表の元データファイルを記録したCD-R, A4用紙に印刷した投稿原稿 (テキストおよび図, 写真, 表, 各1部), カバーレター.
9. 初校は著者の責任においておこなう.
10. 投稿料は無料だが, 掲載が決定されれば, 可能な範囲での別刷りの購入を50部単位でお願いしている. 冊子体を注文することもできる. 校正刷りを編集委員会に返送する際に, 希望部数を編集委員会に知らせる. カラー頁が含まれる場合, 別刷り分のカラー印刷の費用は別途著者負担とする.

原稿送付先: 日本植物形態学会編集委員長 唐原一郎
〒930-8555 富山市五福3190
富山大学大学院理工学研究部 (理学)
Tel: 076-445-6630
Fax: 076-445-6549
E-mail: karahara@sci.u-toyama.ac.jp

日本植物形態学会 2017 年度役員

会 長： 河野 重行（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻）
庶務幹事： 峰雪 芳宣（兵庫県立大学大学院 生命理学研究科 ピコバイオロジー専攻）
会計幹事： 林 八寿子（新潟大学 理学部 自然環境科学科）
会計監査： 松永 幸大（東京理科大学 理工学部 応用生物科学科）

Plant Morphology 編集委員会

編集長： 唐原 一郎（富山大学大学院 理工学研究部 生物学専攻）
委員： 稲田 のりこ（奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科）
宮沢 豊（山形大学 理学部 生物学科）

広報委員会

委員長： 高野 博嘉（熊本大学大学院 自然科学研究科）
委員： 宮沢 豊（山形大学 理学部 生物学科）

評議員： Ferjani Ali（東京学芸大学 教育学部自然科学系）
稲田 のりこ（奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科）
唐原 一郎（富山大学大学院 理工学研究部 生物学専攻）
酒井 敦（奈良女子大学 理学部 生物科学科）
永田 典子（日本女子大学 理学部 物質生物科学科）
野口 哲子（奈良先端科学技術大学院大学 監事）
野崎 久義（東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻）
東山 哲也（名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所）
松永 幸大（東京理科大学 理工学部 応用生物科学科）
宮城島 進也（国立遺伝学研究所 共生細胞進化研究部門）

事務局： 〒671-2201 兵庫県姫路市書写 2167
兵庫県立大学大学院生命理学研究科内
日本植物形態学会事務局
庶務幹事 峰雪 芳宣
Tel: 079-267-4938
FAX: 079-267-4920
E-mail: mineyuki@sci.u-hyogo.ac.jp
Homepage: <http://square.umin.ac.jp/pl-morph/>

会費振込口座：郵便振替 00120-2-669588（加入者名：日本植物形態学会）

